川口市立医療センター広報紙

花水木

ハナミズキ

2018
Vol.35
8月10日

Kawaguchi Municipal
Medical Center

特集

地域連携と救急紹介ホットライン

p2～p3

目次

p4 病院の取り組み：乳がん患者サロン「おひさま」とともに
p5 KMMC コラム：世界禁煙デーに寄せて
p5 人命救助
p6 部署紹介：7A病棟・7B病棟
p7 KMMC Report：七夕コンサート
p7 医師の交代のおしらせ
p8 四季の移ろい
p8 ミニギャラリー３ヵ月

川口市立医療センター
イメージキャラクター
「みみたーズ」

基本理念

市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

特集

地域連携と救急紹介ホットライン

今年度より当センターは、埼玉県から地域医療支援病院の承認を受け、地域の診療所・病院等と連携を図りながら地域の皆様が安心して暮らせるよう、急性期医療に日々取り組んでいます。

かかりつけ医とは

すでにご承知の方も多くいらっしゃると思いますが、改めてかかりつけ医のことから説明いたします。

かかりつけ医とは、患者さんにとってご自宅から一番通院しやすいクリニックや医院（診療所）のことで、日常診療（例えば風邪、持病の継続加療等）に携わってくださっている医療機関の医師・歯科医師のことです。このような第一線で地域医療を担うクリニックや医院等を一次医療機関と言います。

登録医・協力医療機関一覧

かかりつけ医が、患者さんを診察した際に専門医による診察・検査してもらったほうがよいと判断したら、【紹介状（診療情報提供書）】を専門医のいる医療機関あてに書きます。この紹介状の情報をもとに、依頼を受けた医療機関の専門医が診察をして、その症状が一段落した場合には、紹介元であるかかりつけ医に【診療情報提供書または報告書】を送り、治療結果等を報告します。その上で継続した診療が必要な場合には、かかりつけ医に診ていただくことになります。

このような医療機能の役割分担により、患者さんは病気の状態に応じたより丁寧な医療を受けることが可能になります。

また、これからの取組みとして、医療だけではなく介護福祉も含めて患者さんが生まれ育った地域の中で安心して生活することができるような医療と介護等の連携が重要視されています。

こうした地域連携の取組みの中で、当センターは地域医療支援病院として、地域の診療所・病院の先生方から、ご紹介をいただいた患者さんの治療を行う責務を担っています。

※地域医療支援病院とはその名の通り、地域を支援していく病院ですので、医療従事者を対象にした研修会の開催、市民の皆様が参加できる公開講座、高度医療機器の共同利用や救急医療の提供等を行っています。

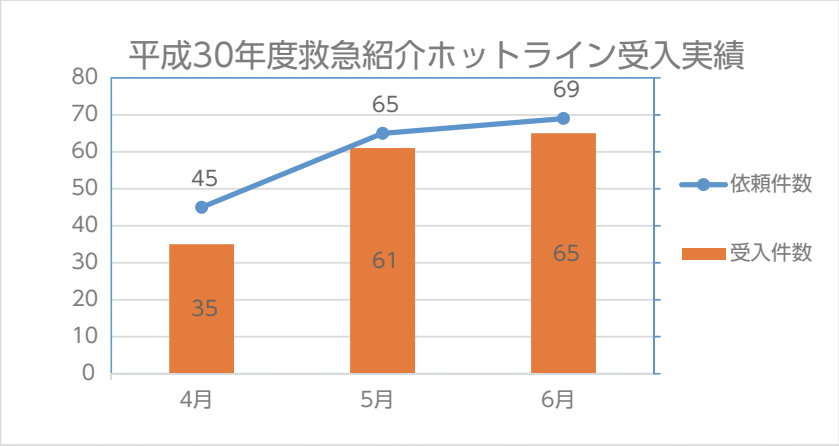
救急紹介ホットライン

当センターでは、平成30年４月から救急紹介ホットラインを整備しました。

救急紹介ホットラインとは、地域で診療を行っている先生方が、緊急受診が必要で早急に相談して診療依頼をしたい患者さんがいる場合、直通の専用ダイヤルに連絡して、当院の専門科医師が直接対応するという体制です。このホットラインの管理を地域連携担当が行い、患者さんが一分一秒でも早く円滑に治療が受けられるように介入しています。

こうした体制を敷くことで、皆様には安心してかかりつけ医を受診していただけると考えています。なお、現在の受入実績ですが、下の表のとおり少しずつ増加しております。

正面カウンター左側にある患者支援センター



当センターでは、患者さんの状態に応じて、主治医だけでなく、他科の専門医師、看護師、技師、その他専門職、事務等のすべての職員が一丸となって患者さんやご家族に向き合って参ります。

今後も当センターが地域医療に貢献し、市民に信頼され安全で質の高い医療を提供していくことができるように努めて参りますので何卒ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

私たちが
担当しています

病院の取り組み

乳がん患者サロン「おひさま」とともに

当センターの患者サロン※1「おひさま」（以下、サロン）は、乳がんのために治療を受けた人たちの会で、2012年６月に発足し、今年で７年目を迎えました。

乳がんの治療は長期間にわたって続きます。サロンの名前である「おひさま」は、「おひさま」のように明るく、前向きに取り組めるようにと願いを込めて患者さんと共に命名しました。

当センターで治療を受けた患者さんの貴重な体験を活かし、患者さん一人一人がよりよく生きていくために、同じ仲間が交流し、気持ちをの分かち合い、勉強会で知識を深め、生活に役立つ様々な情報を共有するといった活動を行っています。（表１）

また、治療過程で必要となる身の回りの用品（帽子、ドレーンポーチ）をサロン参加者の皆さんが心をこめて作成され、完成した作品を当センターに寄付してくださっています。

がん相談支援センターの相談員や看護部の緩和ケアチームメンバーが、サロンの運営に携わっている役員の方をサポートすることで、この活動をさらに充実させていただきたいと思っております。

活動紹介

日　時：偶数月　第２水曜日　午前10時～ 12時

場　所：当センター内

詳細につきましては、院内掲示をご覧いただくか、以下までお問い合わせください。

問い合わせ：患者支援センター　西内・星野・久保

※１　患者サロンとは「患者やその家族など同じ立場の人ががんの事を気軽に本音で語り合う交流の場」です。

がんになったら手に取るガイドより一部抜粋

表１　これまでの主な活動

講演のテーマ

2012年	患者サロン紹介
2013年	乳がんの最新情報
2014年	乳房再建
2015年	がんとこころ
2016年	がん患者さんを取り巻く仕事とお金の問題
2017年	乳がん検診の受け方と結果の見方

主な活動

2012年	栄養／リンパ体操／ストレッチ＆ヨガ／生活のお役立ち情報交換
2013年	毛髪・頭皮ケア／音楽ライブ／リハビリテーション／メイク・スキンケア
2014年	ストレッチ体操／クリスマス飾り／栄養／薬について
2015年	私が笑い療法士になったわけ／薬について／クリスマス飾り／緩和ケアについて
2016年	臨床心理によるこころのケア／リラックスヨガ／薬について／タオル帽子とオーナメント作り
2017年	ストレスケア／薬について／タオル帽子とオーナメント作り／頭髪・ネイルのお話

世界禁煙デーに寄せて

総合健診センター長　**星野　京子**

５月31日は世界保健機関（WHO）の定める世界禁煙デーです。続く一週間は禁煙週間です。

本年の禁煙週間のテーマは、昨年に引き続き『2020年、受動喫煙のない社会を目指して～たばこの煙から子ども達をまもろう～』です。

2020年の東京オリンピックに向け国も東京都も受動喫煙予防対策を整えつつあります。今やたばこの害は一般の方たちにとっても常識といえる時代になりました。

今年も世界禁煙デーに合わせ、当センター職員有志一同で病院周辺の清掃活動を行いました。きれいな環境にはごみを捨てにくいものです。ゴミがある場所は「すでにゴミがあるのだからここにさらにゴミや吸い殻を捨てても大丈夫」という心理が働き、さらに多くのゴミが集まります。さてサッカーワールドカップがロシアで開かれた際、日本チームの活躍とともに報道されたのが日本人サポーターたちが競技場を去る前に必ず自分たちの場所を清掃して帰るという話題です。万人の共感をよぶこの行動、ぜひ自分たちの体という環境を守るためにも一歩踏み出して禁煙を、とお伝えします。私たち医療センターは地域の人たちの禁煙サポーターとしても活動しています。喫煙者の皆さん、ぜひお体を大事に。禁煙しませんか。

人命救助

内科外来　**嶌根 菜穂子**

今回私は、近所のスーパーの中で、従業員の方が仰向けに倒れている現場を通りかかりました。現場では救急車の手配、AEDも準備されてはいましたが、その使用方法に従業員の方々が困っている様子が窺えました。

意識がなく呼吸の確認もできなかったため、私はすぐに心肺蘇生が必要と判断し、AED装着後、心肺蘇生を開始しました。間もなく救急隊が到着し車内搬送後、自発呼吸が確認できたと救急隊から聞いた時、とても安心したことを覚えています。

今、その時のことを振り返ると、あの状況で心肺蘇生を実施できたのは周囲の方との連携があったからだと実感しています。救急車の手配、AEDの準備、一緒に心肺蘇生をしてくれた方、これらのいずれかが欠けていたら、冷静な判断が出来ず患者さんの命を繋げることはできなかったからです。

そして、何より今回の経験を通して実感したことは、日頃の訓練の重要性です。仕事以外に、実際に人命救助が必要な状況が、日常的に起こるとは想像していなかったため、現場に居合わせたときは、頭の中がパニックになっていました。また、AEDは一般の方でも使用できるようにガイドアナウンスも流れますが、緊急を要している場面でいざ使うとなると、誰でも躊躇してしまうほど想像以上に緊迫している状況でした。このような状況の中で、心肺蘇生を実施できたのは、訓練で学んだ「迷ったらAEDを装着する」といった知識や「心肺蘇生法の訓練経験」がとっさの判断、行動に繋がったのだと確信しました。

今後は、どのような場面においても迅速に落ち着いて対応できるよう今回の経験を糧に頑張っていきたいと思います。そして、日々の訓練や患者さんとの関わりを大切にして更に知識や技術を深めていきたいです。

部署紹介

7A病棟

７Ａ病棟の窓からは、都心の夜景やスカイツリー、夏は花火、冬は富士山がきれいに見え、患者さんからも「見晴らしがよく、景色がよかった」と言っていただけています。

７Ａ病棟は主に糖尿病内分泌内科、眼科、整形外科リハビリ期、その他に呼吸器内科、消化器内科、総合診療内科など、様々な診療科の患者さんが入院しています。

糖尿病は糖尿病性腎症、心筋梗塞、脳梗塞の原因ともなっており、生命の危機を脅かし合併症による深刻さは増加しています。このような背景を踏まえ、糖尿病やその合併症予防対策を早期に支援できるよう患者さんへの生活指導を行っています。糖尿病教育では医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、運動療法士など多職種が連携し、チーム医療による糖尿病診療や糖尿病支援の向上を目指しています。

眼科では、糖尿病や高血圧などの慢性疾患や合併症を持った高齢の患者さんが年々増加しており、白内障、緑内障、網膜剥離の手術管理を行う際に、素早い対応と安全な看護を行っています。高齢者や視力障害のある患者さんに対して、患者の目線に合った寄り添う看護を心がけています。

入退院の多い病棟ですが、高齢者の多い病棟であるため、高齢者の特性を踏まえ、生活の質（QOL）を低下させることのないよう、生活に寄り添う看護を心がけています。

7B病棟

７Ｂ病棟は、入院病棟の最上階にありとても見晴らしの良い病棟で、デイルームから見えるグリーンセンターの景色は四季の変化を楽しませてくれます。

常勤看護師33名、パート看護師３名、病棟薬剤師１名、看護補助者４名、クラーク１名の総勢42名の明るく優しいスタッフが勤務しています。そして、担当するのは主に、循環器科、腎臓内科、糖尿病内分泌内科と平成29年に開設された心臓外科となっています。

心臓外科では冠動脈のバイパス手術や、弁膜症の手術などを行っており、手術前から手術後退院までの全身状態の管理をしています。

循環器科では心筋梗塞や狭心症、心不全、不整脈といった心臓の病気で入院する患者さんが多く、ICU・CCU病棟と連携を図っています。また、心臓カテーテル検査を行うために入院される患者さんも多いです。

腎臓内科では慢性腎臓病が多く、血液透析や腹膜透析の導入や、血液透析のためのシャントを作るための手術も行っており、退院後も安全に透析治療が行えるように、透析室と連携して指導を行っています。

糖尿病内分泌内科ではインスリンの導入や、インスリンの自己注射の練習、教育入院などを行っています。教育指導は２週間のプログラムで、医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、理学療法士が日替わりで担当し糖尿病について患者さんと共に勉強をしていきます。

今後も、スタッフ一同力を合わせ、より良い看護が提供できるよう努めて行きたいと思います。

Kawaguchi Municipal Medical Center Report

七夕コンサート

7月6日（金）午後5時から、毎年夏の恒例行事となっている「七夕コンサート」が正面待合ホールで開催され、患者さんやご家族の方々、職員など約200名が集まりました。

コンサートは、長年当センターのボランティアコンサートに携わっていただいている石井英子さんの進行により、ピアノの伴奏に合わせて、ボランティアのかたおよび職員によるコーラス、テノールの歌唱が披露されました。この日に備えて勤務終了後に練習を重ねてきた職員有志も合唱とハンドベルで参加し、最後は「サライ」・「たなばたさま」を全員で合唱しました。

また、中央待合ホールや正面玄関には笹が置かれ、患者さんやご家族の方々が願いを込めた短冊や彩り豊かな七夕飾りが飾りつけられ、コンサートに花を添えました。

医師の交代のおしらせ

新　任

カネコ　ヨシユキ
金子　宜之
6月1日付
精神科 医長
気兼ねなくご相談ください。

イトウ　リュウスケ
伊藤　隆介
7月1日付
消化器外科 副部長
消化器、特に肝胆膵疾患を中心に外科診療にあたります。

イシダ　コウタ
石田　航太
7月1日付
消化器外科 医長
地域の皆様に貢献できるよう精一杯努めさせて頂きます。

ホリウチ　タカシ
堀内　尭
7月1日付
消化器外科
より良い医療を提供できるよう誠心誠意頑張ります。

ユウキ　カナ
結城　奏
7月1日付
小児科
出身地である埼玉の医療に貢献できるように頑張ります。

カマダ　テッペイ
鎌田　哲平
7月1日付
消化器外科
患者様の為に精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

フルカワ　シンヤ
古川　真也
7月1日付
整形外科
宜しくお願いします。

退　任

宮本　武
5月31日付
精神科

中野　公介
6月30日付
救命救急センター 副部長

小森谷将一
6月30日付
循環器科 副部長

船水　尚武
6月30日付
消化器外科 副部長

佐藤　千穂
6月30日付
新生児集中治療科 医長

平本　悠樹
6月30日付
消化器外科 医長

倉信　大
6月30日付
小児科 医長

白井　祥睦
6月30日付
消化器外科

大樂　勝司
6月30日付
消化器外科

大坂　渓
6月30日付
小児科

辻沢　容彦
6月30日付
整形外科

髙橋　暁子
7月31日付
小児科 医長

四季の移ろい

いつか行ってみたい場所

最近のヨーロッパ映画といえば、「グレートビューティー」、「グランドフィナーレ」などお洒落な映画の印象が強いですが、私の好みは何といってもアラン・ドロンやジャン・ポール・ベルモンドが活躍した時代のフランス映画、例えば「太陽がいっぱい」、「ボルサリーノ」や、「道」、「８1/2」、「ニューシネマパラダイス」などもはや古典と言ってよいイタリア映画です。インターネット映画配信サービスが充実して、いつでもこれら名作映画を楽しめる時代になり、気が向くと何度となく観ています。

私が好きな映画の中で、この季節に思い起こす映画と言えば、1970年に公開されたソフィア・ローレン、マルチェロ・マストロヤンニが主演した「ひまわり」です。戦争で引き裂かれた夫婦の行く末を哀感たっぷりに描いた作品ですが、何といっても、エンディングの地平線にまで及ぶ、一面に咲き誇るひまわり畑が壮観でした。子供心に一度は行ってみたい、ひまわり畑の真ん中で、ソフィア・ローレンのように灼熱の太陽に焼かれてみたいと思ったものです。しかし、現在に至るまでひまわりの季節に長期休暇を取るのはなかなか難しく、実現できずにいます。

ロケ地はイタリアかスペインの地中海沿岸だと思いこんでいましたが、調べてみると何とウクライナ、キエフから南へ500kmほど行ったところとのこと。益々、遠くて行きにくいなー。今年は、せめて日本のひまわり畑を探してみます。

（や）

ミニギャラリー３ヵ月

「鹿島寛展」では、色とりどりの色彩で描かれたキャンパスによって院内が明るくなり、来院された方がじっくりと鑑賞していました。

「宮地岩根　最後の楽園ジープ島写真展」では、直径34メートルの小さな無人島で見ることのできる美しい自然の風景を展示し、多くの方々を魅了していました。

「齊藤元男　世界遺産写真展Part7」では、世界各地の遺産の美しい街並みや壮大な風景が当センターの廊下を明るくし、当センターを訪れた方々が足を止めて見入っていました。

どの展示においても、ご覧になったかたから「元気になりました」「心に残りました」など、たくさんの感想をいただきました。

ミニギャラリーは、１階中央通路と、地下１階総合健診センター前で開催していますので、来院された際はどうぞご覧ください。また、ホームページで過去の展示もご覧いただけます。

◆鹿島寛展（5月）◆

◆宮地岩根　最後の楽園ジープ島写真展（6月）◆

◆齊藤元男　世界遺産写真展Part7（7月）◆

編集後記

本誌の表紙を飾る当センターのイメージキャラクター「みみたくん」。作画は本市在住のイラストレーターうさみのぶこさんによるものです。たたら祭りのイメージキャラクター「たたらん」の作者といえばご存知の方もいらっしゃるでしょう。その「みみたくん」が当センタースタッフ（看護師）の手により実体化し、今号でようやく「みみたーズ」として３体揃ってのお披露目となりました。これからも当センター共々ご愛顧くださいますようお願いいたします。

発行責任者　川口市立医療センター　大塚　正彦
編　　集　広報委員会
〒333-0833　川口市西新井宿180
☎048-287-2525（代表）
HP http://kawaguchi-mmc.org